

第71回日本PTA全国研究大会広島大会 参加報告

広島大会スローガン

変化の時代に向け、PTA自身が学びの変革を！

～見つけ 考え かわろうや ぶち楽しいで！！～

広島から全国へ

1日目 【分科会】

12:50～13:20 受付

13:20～13:45 開会行事

13:45～16:50 基調講演・実践発表
・パネルディスカッション

16:50～17:00 閉会行事



広島大会要項表紙

参加 特別第二分科会(文部科学省協力)

研究課題:教育の情報化の推進

～これからの情報化社会にいきる子供たちに必要なもの～

国立大学法人静岡大学教育学部 准教授 塩田 真吾 氏

塩田 真吾氏の基調講演では、「AI・ロボット時代を生き抜く情報活用能力をどう育むか」について具体的なアイデアや方法が提案され、情報活用能力の重要性や具体的な育成方法についての洞察を得ることができました。現在、ICTの活用が日常的なものとなっており、情報テクノロジーが子どもたちの可能性をさらに広げ、学校教育および家庭教育を大きく変えていくことが期待されています。

先生方、保護者も情報活用能力と一緒に学び、教育現場と家庭が両軸でICT学習を進めて行く必要を感じました。

塩田研究室「自撮りトラブルから身を守ろう」

<http://shiotashingo.main.jp/?p=1143>

基調講演MEMOは、別途ご覧ください。



鳥取県PTA協議会の実践発表

実践発表では、とっとり子どもサミットの内容を交え、SNS トラブルから子どもたちを守る合言葉「とりのからあげ」について発表がありました。子どもたちが自主的にインターネットとの適切な付き合い方を考えており、家庭におけるメディア利用に対する取り組み方に非常に参考になりました。

「とりのからあげ」とは、

「と」もだちがきずつく事をしない

「り」よう時間を決めよう

「の」せない個人情報

「か」きんしない

「ら」いは相手の事を考えて送信

「あ」わないSNSで知り合った人

「げ」ーむソフトの年齢制限を守る

の頭文字をとったものです。 URL <http://www.pref.tottori.lg.jp/294961.htm>



鳥取県 子ども家庭部 家庭支援課ページ

パネルディスカッション

パネリスト

高尾 裕子氏(鳥取県PTA協議会), 安井 順一郎氏(文部科学省), 開地 義明氏(広島市電子メディア協議会), 西田 文比古氏(東京大学)

- ・ パネリストそれぞれのこれまでの取り組みの紹介他

2日目 9:00～12:20 歓迎アトラクション 全体会・記念講演

オープニングアトラクション:広島ジュニアマリンバアンサンブル



広島ジュニアマリンバアンサンブル

記念講演

演題 心のトリセツ

～「逃げ癖」を「意欲」に変える脳科学～

講師 人工知能研究者 「妻のトリセツ」

著者 黒川 伊保子氏

冒頭から黒川さんの巧みで軽快なトークで終始会場を沸かせました。人工知能の時代、人間の仕事は命題を探し出すこと(その脳独自の発想力), 発想力と対話力が求められアナログに戻ってきていること等、ご自身のユーモアを交え話されました。急激な変化が予想される今後の社会情勢を乗り切るために必要なことを、脳科学の立場から講演いただき子どもたちの育成に大きなヒントとなりました。



記録 水戸市PTA連絡協議会 渡邊 義政